

ここすき！特別企画 幼稚園に行ってきました！

## つぼみ幼稚園 幼稚園訪問インタビュー

つぼみ幼稚園は、市内の西の端に位置し、立川市との市境に建つ、1954年に創立し、65年の歴史がある幼稚園です。道路側から見る園舎は、レンガ造りと大きなチューリップのステンドグラスが印象的です。

戦後、代用教員をしていた園長先生が、力を落としている子どもたちに音楽や、美術、体育といった表現活動を経験させようと、“つぼみ会”という学生サークルで関東の各地を周り、後に同じく代用教員をしていた奥様と、この地で始めたのがつぼみ幼稚園だそうです。



つぼみ幼稚園正門

## 教育内容

“無関心からは、何も生まれません”

自分の抱く好奇心や探求心をふくらませ、発見する喜びを知り、満足感と豊かな心を得てもらいたい。それが発想や言葉の豊かさ、他者を認め尊ぶ優しい大きな心を育みます。教えるのではなく、子ども自身で気づく、感じる事が最も重要だと私たちは考えています。

つぼみ幼稚園で大切にしていることを副園長先生にお聞きしました。かつては園服やカバンがあったのですが、それを取りやめ、外遊びで汚れたら着替える、汗をかいたら着替える…という当たり前のことを大切にしています。カバンも、今は家庭でたくさん持っているので、あるものを使っていたらいいとのこと。どろんこ遊びや虫取りなど、やりたい遊びは自由にさせている

ので、お母さんたちには、「(洋服を)汚したら、ほめてあげてね」と伝えているそうです。

通園バスも昔はあったそうですが、交通渋滞等で、長い時間をバスで過ごすよりも、園の行き帰りに道すがら親子で会話を楽しみながら歩いてほしいと考えバスはなくなりました。また、バスをなくしたことで、お母さんと毎日顔を合わせて、細かいことを直接伝えられるようになったのが、よかったとのことでした。大人も子どもも、直接顔を見て話すことが大事だとおっしゃっていました。

現在は、園児の数が少なくなっていますが、教員全員が全園児のことを詳しく知れる良さがあります。園児どうしも、学年を越えて、互いの名前がわかり、親しくなれるそうです。



園庭

園では毎月、例会という保護者会を開催し、子どもたちの様子や、翌月の保育のねらいを伝え、情報を共有しています。お母さんたちも、頻りに顔を合わせ行事に参加していく過程で仲良くなるそうです。園では、お母さんたちに子どもを中心に置いて、取り囲む周りの人たちの関係性を良くしていければ、子どもたちは安心して育つ、と話しているそうです。副園長先生の厳しくも温かい言葉が、お母さんたちとの関係も育てているのだなと感じました。

お昼は、お弁当が主ですが、週2回給食を頼める日があります。年長児は、週1回は必ず給食で、みんなと一緒に同じものを食べる機会をつくっています。“残さず食べる”ことを原則に、自分のためにいろんな命をいただいていること、普段一生懸命にお弁当を作ってくれているお母さんに感謝することを伝えているとのことでした。

音楽会等の行事について聞いてみました。幼稚園では、絵や製作物などを見てもらったり、歌や踊り、運動などを発表したりといった機会があります。

また、生活の中にも表現する場があります。「やめて」や「いやだ」も、表現の第一歩で、日常のあらゆる場面にチャンスがあります。タイミングを捉えて的確に働きかけ、成長につなげられたら、と思っているそうです。また、様々な表現を身につけていく中で、たまたま展覧会、音楽会が目にとまりやすいの

ですが、それは目標ではなく、手段のひとつなのだそうです。音楽が得意な子、絵が、運動が得意な子、反対に不得手な子、どの子も自分を表現したい、認められたい、という思いは同じです。いろいろな機会を与えて、達成感を感じてほしいと話されていました。ただし、その前に厳しいことも経験しないと、本物の達成感は味わえないとのこと。ここまでできたとしたら、そこで満足せず、その次は・・・と目標を上げていくと、達成感がより大きなものになる。「やらされている」のではなく、「自分がやりたくてやる」と子ども自身が思えることが重要だと、また、自分だけが頑張ったのではなくて、周りの人の協力があったからこそできたのだと、知ってほしいと話されていました。

ご両親が舞踊家であったことから、副園長先生も、バレエ、ジャズダンス、タップダンス、ヒップホップ、…と、様々なダンスをしてきて、創作することが得意分野だそうです。ダンスと保育は違うけれど、プロデュースするという点では同じだと考え、また、周りに当たり前子どもがいる中で人間性を育てられたことへの感謝の気持ちから、今の仕事に就いたそうです。そしてつぼみ幼稚園の「命の火を大切にすること」「ありがとうを言うこと」という二つの教えを、大切に受け継いでいきたいとのことでした。



この仕事をしていて感動したことは何ですか？と尋ねてみました。幼稚園生活を通して、子どもが成長するのが一番うれしいけれど、それは当たり前。一人目の時には、子どもに振り回されていたお母さんが、二人目、三人目になった時に、経験を活かし、他の若いお母さんにアドバイスをするようになった姿に感動したと言います。親子で過ごす時間がどんな時間であったか、ということが教育の最も重要な点であり、何か問題が起きたときに、良さそうに見える方法に安易に飛びつくのではなく、問題を克服するまでの過程が大事だとおっしゃいます。また、ひとりの親として、自分の目を肥やすこと、自分で考え、一つひとつひっかかった時には、「調べてみよう」と、知識欲につなげることを大事に考えてほしいと、若いお母さんたちに伝えられることは伝えようと思っていると話されていました。

子どもたちとお母さんたちへの、熱い思いが感じられたインタビューでした。

※幼稚園のホームページは市役所ホームページからもご覧になれます。

国立市ホームページ→子育て支援ページ→子どもを預ける→幼稚園→国立市幼稚園等一覧